

A 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

- マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。
- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
 - 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
 - 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
1 2 3 4 5
○ ○ ● ○ ○

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

波打ち際というトポス^(注1)の特性について考えてみます。

波打ち際とはいったい何なのか。それは三つの特質に要約されるように思います。まず一つは、それが境界領域であるということです。波打ち際の境界線は絶えず移動します。波が打ち寄せてきてはまた引いてゆくたびごとに、波打ち際は絶えずずれていき、それを一つの定まった線の形で確定することはできません。もちろん潮の満ち干もあります。そうした不安定さ・不確定さ・不分明さ、これが波打ち際の第一の特性です。

もう一つは、心もとなさやよるべなさの感覚と関係してきますが、波打ち際とは存在が海に向かって露出される場であるということです。人間のように肺呼吸をするホニユウ類の生き物は、水の中では生きていけませんから、われわれが眼前にしている海とは、外界であり異界であり、ともかく自分が自分でなくなるかもしれない何か危険な場所です。波打ち際に立つとは、そうした異界のへりに露出されるということです。とはいえ、われわれの背後には、そうした危険から存在を庇護してくれる後背地の陸がある。いざとなれば安全な内陸にいつでも退避できるという、一種の安心感や甘えもある。露出と庇護とのバラドクサルな^(注2) a とでもいうのか、露出されて在ることと庇護されて在ることとの甘美な葛藤とでもいったもの、これが波打ち際の第二の特性だと思います。そこには、外部にさらされている者の緊張感と、内部によって守られている者の安息とが同時にあるということです。

最後の、第三の特性は、それが予感・畏怖・ b の場であるということです。つまり、それは他者の到来を迎える場なのです。異界としての海にはいろいろなものが潜んでいる。打ち寄せてくる波に乗って、何やら怪物的な脅威でもあるかもしれない他者が、いつ何どき、そこから訪れてくるかもしれない。そうした怯えとともにわたしは波打ち際に立っている。しかし、それは同時にまた、わたしを怯えさせる脅威であるよりはむしろ、わたしを魅惑してやまない何か——むしろ官能的な快楽の対象たりうる、喜ばしい何かであるかもしれません。

外界の彼方に潜む官能的な対象からの呼びかけに魅了されるといったことも、起こらないではない。

モリス・ブランショの『来るべき書物』の冒頭に、「セイレーンの歌」をめぐって書かれたすばらしい数ページがありますが、聞く者の心を蕩けさせるセイレーンの呼び声に深く魅惑されながら、それに釣られて海に飛びこまないようにとマストに自分を固く縛りつけることで、辛うじて難船を免れ、航海から無事に帰ってこられたという、あのオデュッセウスの神話に含まれる教訓の問題が、ここにも出てくるように思います。

そこには、存在に危機をもたらす異形の他者と出会いかねないという恐怖がある。しかし、同時にその恐怖は、もつとも **C** な誘惑でもまたありうる。存在をしばしば引き裂いてやまないこの根深いアンビヴァレンツを、波打ち際の三つ目の特質として挙げられるように思います。そして、危険と恍惚を同時に孕むこのアンビヴァレンツに、わたしはさまざまなかたちで惹かれつつづけてきたのです。

こうした「波打ち際」のイメージを糸口として、私の過去の仕事の系譜を振り返ってみると、いろいろなことがわかってくるような気がします。たとえば、わたしはこれまで映画についてかなり多くの文章を書いてきました。では、映画とはわたしにとって何だったのか。映画館のスクリーンこそは、まさしくわたしにとっての特権的な波打ち際だったのではないかと思うわけです。

映画館のスクリーンとは、その彼方からイメージと音響の波がダイナミックに打ち寄せてくる、危機的にして魅力的な境界にほかなりません。打ち寄せてくる映像と音響の波動に身をさらし、心もとなさといとおしさでもって、それと出合うという体験。映画とはわたしにとって、それ以外の何ものでもなかった。あれは良い映画でこれはずまらない映画だなどという月日評をすることには、実を言えばあまり興味がなかったし、今もないのです。

映画とはいったい何かということですが、一八九五年にリュミエール兄弟のシネマトグラフが発明されて以降、映画が人類の文化に付け加えたのは、スクリーンという、この比類のない波打ち際の体験なんですね。そのため

に映画が用いたのが、プロジェクション（投射）という不思議な仕掛けです。ある意味でこれは未だに誰もその魅惑の本質を説明していない、謎に満ちた仕掛けだと思えますけれども、この投射機制というものによって、スクリーンは光と闇、意識と無意識との間の波打ち際として成立することになったわけです。スクリーンというのはもちろん、単なる一枚の、厚みのない皮膚です。それ自体はまったくフラットな、いかなる厚みも欠いた平面でしかないにもかかわらず、その「奥」から、その「彼方」から、——それは偽の「奥」であり偽の「彼方」なのです——イメージと音響の量塊がどっと押し寄せてくるという、これは本当に不思議なことですね。この不思議に魅了されるという原体験、すなわちプロジェクションとスクリーンによってつくり上げられたイメージと音響の波打ち際に身をさらすことの恍惚が、わたしにとっては何よりもまず決定的だったのではないか。

ここで言うスクリーンは、平面性にその本質があるわけです。近年、3D映画が増えてきましたが、わたしはどうも3Dという装置には興味が持てません。たとえば先頃、「アバター」という3D映画がヒットしていました。その宣伝コピーは、「観るのではない。そこにいるのだ。」といった類のものでした。見るという行為は、見る瞳と見られる対象との間に距離を必要とするわけですね。視線によってその距離をトウハするところに、見ることの本質がある。それに対して、3D映画には、少なくともその理想形態においては、もはや距離がない。もう、空間の中に丸ごとすっぽり入ってしまうのだという。そうしたなまなましい臨場感を備えたシミュレーション体験というのは前代未聞のもので、さあどうです、すばらしいでしょうというのが配給会社の宣伝文句の趣旨なのです。しかし、わたしはどうも、映像の中にすっぽり入り込んでしまう、イメージ空間に丸々浸り込んでしまうという、まあ一種、テーマパーク的なヴァーチャル体験といったものでしょうか、そういうことにあまり興味が持てない。なぜなら、そこには波打ち際がないからです。

一枚のぺらぺらの皮膚でしかないスクリーンという波打ち際が、眼前に絶えず不安定に、不分明に揺れていること。その奥から、その彼方から、偽の「深さ」を横切って、イメージと音響が心細さと心地良さとをともども喚起しながらこちらに迫ってくる。そうした体験こそがわたしにとって重要だった。3D空間の立体的な幻

像においては、波打ち際という境界に生まれたあのスリリングな緊張感が雲散消失してしまうのです。

(松浦寿輝「波打ち際に生きる——研究と創作のはざままで」による)

(注)

- 1 トボス——場所、ひいては議論の依拠する論点、命題などを指す。
- 2 パラドクサル——フランス語の形容詞で、「逆説的な」の意。
- 3 モーリス・ブランショ——フランスの作家・批評家(一九〇七—二〇〇三)。
- 4 セイレーン——古代ギリシャ神話に登場する、女の頭部と鳥の胴体を持つ海の怪物。
- 5 アンピヴァレント——ドイツ語の名詞で「両価感情」の意。

問

- (A) 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)
- (B) 線部(a)・(b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 本文中に三か所で「異界」という言葉が使われている。左記各項のうち、その説明として適当なものを1、適当でないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 不分明な混沌が支配する近づいてはならない場所である。
- ロ 肉体と精神の双方において自分を喪失しかねない危険な場所である。
- ハ 危険な魅力に心身が引き寄せられかねない怪しい場所である。
- ニ 危険と安心が隣り合わせの、二律背反な性質をもった場所である。
- ホ 人間の好奇心を刺激する未知の場所である。
- (D) 空欄 a 1 c にはそれぞれどのような言葉を補ったらよいか。その組み合わせとして最も適当な

もの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 a 共存 b 脅威 c 危険
- 2 a 対立 b 脅威 c 甘美
- 3 a 共存 b 誘惑 c 危険
- 4 a 対立 b 誘惑 c 危険
- 5 a 共存 b 誘惑 c 甘美

(E) 線部(1)について。映像と音響に身をさらすことは、筆者にとって何を体験することなのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 投射機制の不思議
- 2 オデュッセウスの神話の教訓
- 3 誘惑による自己の喪失
- 4 他者の到来
- 5 波打ち際の移動

(F) 線部(2)について。筆者が映画に魅了される理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 厚みのない皮膚としてのスクリーン自体が、パラドクサルな本質を持つものだから。
- 2 光と音響のプロジェクトンによってスクリーンが不思議な境界に変容させられるから。
- 3 スクリーンがあつて初めて音響と光に観客が包み込まれる空間喪失の感覚が可能となるから。
- 4 プロジェクションがスクリーン上に作り出す生々しい感覚がヴァーチャルな体験を可能とするから。
- 5 スクリーンによって光と闇、意識と無意識、異界との遭遇を体験することが可能となるから。

(G) 線部(3)について。筆者がそう考える理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号

で答えよ。

- 1 スクリーンの不分明さがなく、見られる対象との間の距離が消失してしまうから。
- 2 見ることの本質である距離が保たれていることが映像空間に潜入する体験を保証するから。
- 3 3Dを特徴づける迫真的な臨場感が波打ち際の緊張感を無効化してしまうから。
- 4 前代未聞の立体的な空間のすばらしさを疑似体験することに興味が湧かないから。
- 5 投射機制とスクリーンが作り出す不分明の逆説性が一層実感されるのが3Dだから。

(H) 左記各項のうち、筆者が考える「波打ち際」の説明として適当なものを1、適当でないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ 陸と海が交わる場所であり、人間が自分の存在の危うさを感じさせられる場所である。
- ロ 未知のものへの怖さと慣れ親しんだものへのいとおしさが同時に感じられる場所である。
- ハ 矛盾した感情の葛藤が生じたり、相反する要素が交わったりする画然とした場所である。
- ニ 人間感情を含む二元的要素が緊密に作用し合う場の比喩的な総称である。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

「夏の暑い盛りに明治天皇が崩御になりました。其時私は明治の精神が天皇に始まつて天皇に終つたやうな気がしました。……もし自分が殉死するならば、明治の精神に殉死する積だと答へました。」

なんびとも知るようにそれは慶応三年(一八六七)に生れ、大正五年(一九一六)に死んだ夏目漱石が大正三年(一九一四)の作『ごころ』の中に記したことばである。天皇の治世をもつて時代の区分とし、また一つの時代を考えるのは、史的に云えば全く独断にすぎず根拠のないものといわれるであろう。しかしそれにもかかわらず、明治時代と一般に呼ばれ、明治の精神、⁽¹⁾というこゝろがひとつの意義——しかも自己の生命につながるものとして、同時代を生きてきた文学者によつて感覺されていたということは重大なことといわねばならない。いわゆる明治維新に出發する四十五年間はこうした意味で、日本の精神史においても大きな意味を蔵している時代なのである。永らくつづいた徳川封建の社会の中にあつては、心中として自己の生命をかけた封建道徳への反抗者の群や、あるいは西鶴(注)のごとく、遊里の世界にのみ人間を發見してその一切の行動につめたい傍觀者的客觀を事としていた人達がわずかに人間の価値を知っていたにすぎなかつたし、それ以外の人々の中にはおりおり本居宣長のような合理主義、批判主義的な近代的見解の保持者や、人間平等を説いた司馬江漢、あるいは『自然真営道』によつて社会を自然世と法世に分ち、一種の自然法思想を示した安藤昌益等のごとき新しい思想の提唱者たちの芽がありはしたが、それらがそのまま生育して明治のひとつとの苦闘した思想となつたのではない。すでに産業革命を経由して近代社会を熟させつつあつたヨーロッパ、アメリカに對決し、俄かに世界に對する視野をもたねばならなかつたところ、いわば強制された視野の擴張によつて幾多の歪みと変革と混乱をもつた時代が生れたのである。

ここに従来の身分社会の階級的な束縛から解き放たれて社会を浮動してゆく階層の發生——それは明治特有の

思想家と呼ばれる群である——があり、これに加えてかつての統制された思想に代つて自由競争を旨とした多種多様の思想の出現が始まったのである。前者の動きは徳川幕府の崩壊によつて起つた固定した身分社会の分解から始まったのであり、後者は後進国としてはじめて世界に開かれた広大な道が多種多様の思想の流入のために用意され、またその道を進み来るものに対して、ひとつの信頼をもつていた国民が、豊富な思想の買手として存在していたことによつて、それぞれ実現されたのであった。啓蒙と紹介によつて思想の媒介者となつた学者、ジャーナリスト、文学者はすべて思想家と呼ばれる地盤を共通に具えていたのであり、明治前半においてその傾向は特に著しかったのであった。そうして明治政府と社会の機構が新しい意味での封建的構成に次第に変化してゆくにつれて、学者は国家官僚の組織の中に、ジャーナリストは資本制産業機構の中に、文学者はギルド的な徒党制の中に吸収されてゆき、かつての自由に浮動する思想家という地盤は失われていたのである。

こうした明治後期には失われていった共通の地盤、共通の性格こそがいわゆる明治の精神であつた。それはいわば青春の思想ともいうべきものである。明治の国家、あるいは社会そのものが先進国の間に伍して背のびしなければならず急速に追い付いてゆかねばならない焦慮を伴う上昇性を基本の性格として所有していた時、それらの中に生きはじめていた思想家群たちもまた性急な西欧思潮の追跡に専心せねばならなかつたのであり、そこにはヨーロッパとアジアのもつ現実的な隔りを縮めようとする焦りに似た努力がくりかえされていったのである。ここに明治にはじまり、今日においてもなお続いているといわねばならぬアンシャンレジーム(注)に対しての永い戦いが始められたのである。芸術面において、学術面において、宗教面において——しかし発展し成長してゆく日本の資本主義機構、市民革命の挫折、絶対主義政府の成立などに現れるこれらの新しい思想層の戦いは、明治維新につながる明治の精神の上にヘイコウを保つたままですづけられたのである。そうしてそのバランスの失われた混乱期が次に来た大正期の動揺と分裂とだつた。

さらに明治の精神の担い手たちはそうしたアンシャンレジームとの戦いと共に、また新しく社会を支うべき新倫理の発見という責任があつた。しかも現実に関かれた世界の潮流はヨーロッパの先進性と、アジアの後進性を、

具体的な深刻な経験と印象を与えかつ示すことによつて迫つてきたのであり、そこに急速な開化と上昇のためには、まず西欧文明のための培養土の多量の輸入が行われねばならなかつた。維新の改革に連続する過程として自由民権運動が日本の中に強い勢いをもつて流れはじめた時も、これを指導する精神として種々の立憲主義、自由主義が各種の色彩をもつて現れたのである。スマイルス、モンテスキュー、ルソーに基く自由民権思想、コント、ベンタム、ミル、ダーウイン、スペンサーを通ずる英国風の経験論的実証主義、功利主義、進化論等が相ついで紹介されたのであり、それらの中には未消化のままのセイコウ(14)なものも多く混つていたことは否(15)みえない事実である。天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生れながら貴賤上下の差別なく」と『学問のすすめ』によつて啓蒙的な自然法思想をもつて政治社会における天賦人權論を立て、新道徳を形成せんとした福沢諭吉のそれも封建的な価値体系を打破するに当つては、人間一般の感性的共感を呼び起し易い性格をもつていたために、価値転換の上にも大きな力をもつものであつた。しかしそれに代るべき新倫理の確立については、なお現実から離れてしまつた観があつた。それは日本人の中に古くより流れている抒情性の上に立つた行動に対して全く無批判であり感性的な共感と一致を求めたところに起因するであろう。「人民独立の氣力」を説き、「文明の精神」の確立を叫んでも、それは身分社会の解放によつて再びかつての心情の論理を回復した一般社会に対しては、かすかな警鐘でしかなかつた。内的な自己規制の力を情感によつて捕えられるものに求める日本人固有の心性はここに再び強く動きはじめたのである。そしてこれに加うる明治政府の実学尊重、実利主義中心の政策がさらに拍車をかけた。明治十年の西南の役によつて、富国強兵を中心とする絶対主義政府の基礎が強められるに至ると、この傾向は一層明らかとなつてゆく。新しい官僚制の確立のもとに、庶民は一時安定した社会の中に置かれたことを感知するや、直ちに官能的な享樂主義を追求することが一時に盛んとなつたことにもその事實はよく表われている。権力の座についた新官僚たちの奢侈(16)と放縱な生活、「行幸、官員、華族、士族」といわれた東京における弱肉強食的な実利主義の立場から当然視された享樂生活、また毒婦物(17)と呼ばれる文学の類の続出と流行といった現象が展開されるに至つたのである。

それは決して民衆の無自覚のみに帰すべきものではない。一旦解放された自我が、それを規制すべき新たな内的規範をもたなかった場合においては当然傾いてゆく心情であった。

(吉田光邦『日本科学史』による)

(注) 1 西鶴——井原西鶴(一六四二—一六九三)。江戸前期の浮世草子作者、俳諧師。

2 アンシャンレジーム——フランス語で「旧制度」の意。もともとは、一七八九年のフランス革命前の絶対君主制およびこれに対応する封建的な社会体制をいう。

3 毒婦物——悪心があつて人を害する女を主要登場人物とする小説などの文芸作品。

問

(A) 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) 線部(a)・(b)の意味として最も適当なものを、左記各項の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

(a) 1 自由 2 鮮明 3 独自 4 突然 5 無理

(b) 1 介して 2 すくんで 3 並んで 4 はさまれて 5 交つて

(C) 線部(1)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 視野の拡張が強いられたものであったことに起因する歪みと混乱を合わせもつた人たちの精神

2 階級的な束縛を解かれ、自由に西欧の思潮を追うことができるようになった人たちの精神

3 明治後期に、国家官僚制、資本主義的産業機構、ギルド的徒党制の中に継承されていた精神

4 封建制に終わりを告げて、万人に貴賤の区別はなく生れながらに平等であると説く人たちの精神

5 絶対主義に基づく明治政府の、富国強兵、実学尊重、実利主義中心政策を旨とする精神

(D) ——— 線部(2)について。その具体的内容として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 心中行や遊里の世界に人間性をみようとす思想
- 2 宣長の合理主義、江漢の人間平等説、昌益の自然法思想
- 3 自由民権思想、経験論的実証主義、功利主義、進化論
- 4 福沢諭吉の『学問のすすめ』に著わされた天賦人權論
- 5 明治政府の実学を尊ぶ実利主義的思想

(E) ——— 線部(3)について。その性格の説明として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 自由に浮動する思想
- 2 焦慮を伴う上昇性
- 3 バランスの失われた混乱
- 4 内的な自己規制
- 5 毒婦物文学の統出

(F) ——— 線部(4)について。それは具体的にどのようなことか。左記各項の中から最も適當なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 抒情性に立脚する行動に対して、批判的な考え方を育もうとする心性
- 2 内的な規範を、情感によって捕捉できるものに求めようとする心性
- 3 かつての封建的な価値体系を支えていた日本人古来の心性
- 4 福沢諭吉の訴えた“人民独立の氣力”や“文明の精神”に底流する心性
- 5 感性的共感に基づく旧道徳に代る新倫理に備わるべき心性

(G) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 夏目漱石は、“明治の精神”ということばを自己の生命につながる重大な意義をもつものとみなした。

ロ 明治の思想の萌芽は、宣長らの新思想よりはむしろ遊里に人間の世界をみた西鶴にあった。

ハ 明治の思想家と呼ばれた人々は、欧米の諸思想との戦いにおいて混乱を来たし、動揺と分裂を招いた。
ニ ヨーロッパの自由民権思想や実証主義、功利主義などは、明治期の新倫理確立の力となった。
ホ 官能的な享楽主義は、明治の民衆に自己規制の力が育まれなかったことよって出現した。

三 左の文章は、『堤中納言物語』思はぬ方に泊りする少将の一節で、大納言夫妻の死後、妹君とともに心細く暮らす姫君のもとに、主人公の少将が通つてくるようになったころのことを記している。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

大納言の姫君、二人ものし給ひし、まことに物語に書きつけたるありさまに劣るまじく、何事につけても生ひ出で給ひしに、故大納言も母上も、うち続き隠れ給ひにしかば、いと心細き古里に、ながめ過ごし給ひしかど、はかばかしく御乳母(注1)だつ人もなし。ただ、常に候(注1)侍従、弁などいふ若き人々のみ候へば、年にそへて人目まれにのみなりゆく古里に、いと心細くておはせしに、右大将の御子の少将、知るよしありて、いとせちに聞こえわたり給ひしかど、かやうの筋は、かけても思し寄らぬことにて、御返事(注2)など思しかげざりしに、少納言の君とて、いといたう色めきたる若き人、何のたよりもなく、二ところ御のごもりたる所へ、導き聞こえてけり。

もとより御志ありけることにて、姫君をかき抱きて、御帳の内へ入り給ひにけり。思しあきれたるさま、例のことなれば書かず。推しはかり給ひにしも過ぎて、あはれに思さるれば、うち忍びつつ通ひ給ふを、父殿聞き給ひて、(注3)「人のほど、口惜しかるべきにはあらねど、何かは、いと心細き所に」など、許しなくのたまへば、思ふほどにもおはせず。

君もしばしこそ忍び過ごし給ひしか、さすがに、さのみはいかがおはせむ。(注5)さるべきに思しなぐさめて、やうやううちなびき給へるさま、いとどらうたく、あはれなり。昼など、おのづから寝過ごし給ふ折、見奉り給ふに、いとあてに、らうたく、うち見るより心苦しきさまし給へり。

何事もいと心うく、人目まれなる御すまひに、人の御心もいと頼みがたく、「いつまで」とのみながめられ給ふに、四、五日いぶせて積りぬるを、「思ひしことかな」と心細きに、御袖ただならぬを、我ながら、「いつならひけるぞ」と思ひ知られ給ふ。

人心あきのしるしの悲しきにかれゆくほどのけしきなりけり

(注) 1 侍従、弁——姫君・妹君に仕える女房の名。

2 少納言の君——姫君・妹君に仕える女房の名。

3 父殿——少将の父、右大将。

問

(A)——線部(1)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 思いやりがある

2 血縁がある

3 しつかりしている

4 年長である

5 経験が豊かである

(B)——線部(2)の説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 生活している部屋

2 鎖されている部屋

3 就寝している部屋

4 空いている部屋

5 隠れている部屋

(C)——線部(3)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 情愛

2 容姿

3 身分

4 財産

5 人望

(D)——線部(4)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 物足りない

2 不愉快だ

3 後悔される

4 気の毒だ

5 親しめない

(E)——線部(イ)・(ロ)は、それぞれ誰の誰に対する敬意を表すか。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ

選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

- 1 語り手の姫君に対する敬意
- 2 語り手の少将に対する敬意
- 3 少将の姫君に対する敬意
- 4 姫君の少将に対する敬意
- 5 語り手の父殿に対する敬意
- 6 少将の父殿に対する敬意

(F) 線部(5)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 少将との関係をつらく思えばかりはいられない
- 2 少将にひかれたことを悔やんでばかりはいられない
- 3 少将との関係を世間に隠せばかりはいられない
- 4 父殿の意向を気にして自重してばかりはいられない
- 5 父殿が反対するのに逆らってばかりはいられない

(G) 線部(a)・(b)の文法上の意味として最も適当なものを、左記各項の中から一つずつ選び、番号で答えよ。
ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

- 1 受身
- 2 自発
- 3 尊敬
- 4 可能
- 5 存続

(H) 線部(6)の現代語訳を十字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(I) 線部(7)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 人から避けられている
- 2 人の目に触れない
- 3 人に知られていない
- 4 人の訪れがない
- 5 人が住んでいない

(J) 線部(8)について、どういうことを「なら」ったというのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 恋がうまくゆかないことゆえの物思いのつらさ

- 2 人の愛情をうかつに信じてしまったわが身の愚かさ
 - 3 いつまで生きられるかわからない命のはかなさ
 - 4 自分の思うように生きられない運命のつたなさ
 - 5 生前の父母からそそがれた愛情のありがたさ
- (K) ~~~~~線部について。この和歌に用いられている掛詞を二つ抜き出して記せ。ただし、順序は問わない。